

超下級 カスタムカー降臨す!!



何とこれが、あの80スープラなのか!?

先月号でご紹介した Z80 に続き「面白いクルマがあるから取材に来ない？」との「カーブティック TTS」さんからの悪魔の囁きにつられて行ってみると、ナナ何と!! 見たことも無いクルマがあるではないですか!! これは一体何ですか? と聞くと「80 スープラ」だという……。しかし全くスープラの面影が無い…。そこに登場したオーナーの浅野さん。相当なカスタム費用が掛かっているに違いないと思い、仕事は何しているんですか? と聞いてまたビックリ!! 何と普通の会社員だそうです。そもそもスープラと出会ったのは 18 歳で、初めて乗った車だそう。以来 21 年間乗り続け、少しずつ手を

加え今のクルマに仕上がったとの事。オリジナルは黒色のノンターボだったようですが、今やダークパープルに塗られた妖艶なスポーツカーに大変身しています。外装はアブフラッグの「S900KIT」を使用しながらワンオフで手を入れており、ほとんど別物という仕上がりです。もちろんエンジンもチューニングされ 750 馬力以上だとか。そのパワーを路面に伝えるべく駆動系や足回りも強化済み。更に内装、オーディオ等にも妥協なく手を入れています。まさに自分オリジナルのクルマに仕上げられています。久しぶりに発見した超下級カスタムカーをぜひじっくりとご覧ください。



基本的にはアブフラッグの「S900KIT」でカスタムするが、リアハッチはVeilSideのワンオフ品を採用。ボディサイドからリアスポへと繋がるラインがとても流麗だ。なお視界確保のために常時リアカメラがバックビューを室内に映し出す仕掛けだ。



テールライトは自作で全くスープラの面影はない。ブレーキライト部はアルファ Romeo 4C を流用しながらバックライト部は BMW Z4 を流用しているという。FRP加工により緊ぎをうまく仕上げているため、まるで一体化した純正品のような仕上がりだ。



純正ヘッドライトを流用しながらも雰囲気は全く別物!! 切れ長のアイラインによりキリッとした表情を醸し出す。この眼光は只者ではない証だ。



フロントには10.5Jのワイドホイールに19インチの255/35R19タイヤが組まれている。そのワイドタイヤを収めるためにフロントフェンダーもワンオフ加工品だ。



リアには13.5Jの超ワイドホイールに345/30R19の超ワイドタイヤを装着。あのマクラーレンP1と同じサイズだ!! タイヤはNITTO INVOを採用している。



リアフェンダーもワンオフ加工品。大きく開口されたリアインテークが大迫力!! ドアハンドルは一段奥まった位置にあるが、これが元々の純正のドアハンドル位置。かなりのワイド化がなされている証だ。

リアにはこれまたワンオフのディフューザーを装着しダウンフォースを確保する。マフラーもワンオフのチタンデュアルマフラーだ。



スープラ (A80 型)

1993年5月に発売されたトヨタの上級FRスポーツカーで2002年8月までに国内で約3万台が販売されました。エンジンは3リッター直列6気筒ツインターボが搭載され280馬力を誇り、国産車初の6速ミッションも採用されました。当時としては大ヒットしたモデルではありませんが、近年の絶版スポーツカーブームにより国内外で非常に人気が高くなり現在では価格が高騰しています。